

[B] 弥生時代

- ① 弥生文化 (紀元前4世紀?～紀元後3世紀に九州～東北まで栄えた文化)
 (1) 1884年に東京都本郷弥生町の向ヶ岡貝塚から発見されたことが由来
 (2) 2003年に放射性炭素¹⁴C法により紀元前10世紀とする説が出された
- ② 非農耕文化 (農耕を行わない狩猟・採集・漁労文化)
 北海道＝縄文文化 (縄文土器をとまう食料採取文化)
 (7世紀以降)→擦文文化 (擦文土器をとまう食料採取文化)
 ★樺太・南千島沿岸部ではオホーツク文化 (海洋狩猟民文化)が栄える
沖縄＝貝塚(南島)文化 (島嶼性を反映した食料採取文化)
 農耕を行わないので北海道と沖縄は弥生文化に含まない!

—— [水田遺構(水稲耕作の技術が中国の長江(揚子江)下流域から伝来)] ——
 (朝寝鼻貝塚(岡山県) (縄文前期のプラントオパール(稲の化石)が検出)
 (尖石遺跡(長野県) (縄文中期の雑穀の焼畑農耕が進展＝原始農耕)
 板付遺跡(福岡県) (縄文晩期の水田跡を発掘) 縄文時代晩期には
 菜畑遺跡(佐賀県) (縄文晩期の水田跡を発掘) 稲作が開始された
 砂沢遺跡(青森県) (弥生前期の水田跡を発掘) 約100年間で稲作が
 垂柳遺跡(青森県) (弥生中期の水田跡を発掘) 東北地方まで伝わる
 登呂遺跡(静岡県) (弥生後期の水田跡・高床倉庫跡・畦畔を発掘)
 太平洋戦争中の1943年に発見され、戦後に発掘調査

水稲

耕

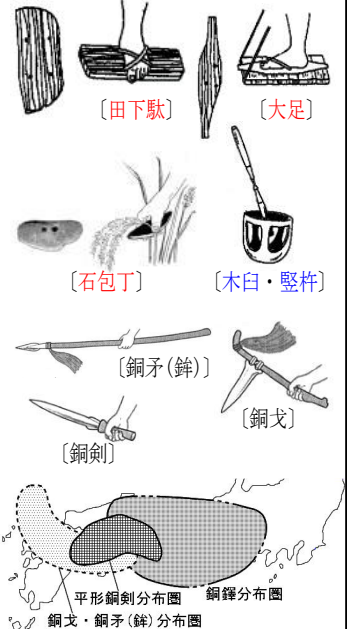
作

の

開

始

	弥生前期	弥生後期
水田	<u>湿田</u> (排水施設をもつ生産性の低い水田) → <u>乾田</u> (灌漑施設をもつ生産性の高い水田)	
種籾	<u>直播</u> (種籾を直接水田に播く方法) → <u>ジャポニカ種</u> (短粒米)を栽培 ★田植えも始まっていた ex. <u>百間川遺跡</u> (岡山県)	cf. <u>インディカ種</u> (長粒米)
農具	<u>木製農具</u> (石包丁・太型蛤刃石斧を除く) → <u>鉄製農具</u>	
工具	<u>太型蛤刃石斧</u> (木材伐採用の大陸系磨製石斧) → <u>鉄斧</u> (伐採用)・ <u>刀子</u> ・ <u>鉋</u> (加工用)	
(耕作用)	<u>木鍬</u> ・ <u>木鋤</u> (田を掘り起こす) → <u>鉄鍬</u> ・ <u>鉄鋤</u> (鉄の刃先をつける)	
	<u>えぶり</u> (水田の土をならす)	
(湿田用)	<u>田下駄</u> (田に足がめり込むを防ぐ) <u>大足</u> (田に肥料を踏み込む) <u>田舟</u> (稲や肥料を運ぶ小型の舟)	<u>えぶり</u> <u>田下駄</u>
(収穫用)	<u>石包(庖)丁</u> (稲穂をつみとる大陸系磨製石器) → <u>鉄鎌</u> ・ <u>石鎌</u> → <u>穂首刈り</u> で収穫 ★収穫した穀物は <u>高床倉庫</u> や <u>貯蔵穴</u> に収納	→ <u>根刈り</u> で収穫
(脱穀用)	<u>木臼</u> ・ <u>堅杵</u> (穀物を臼に入れて杵でつく)	
土器	弥生土器 (赤褐色・薄手・硬質) ex. <u>甕</u> (煮炊き用)・ <u>壺</u> (貯蔵用) <u>甗</u> (米蒸し用)・ <u>高杯</u> (盛付け用)	<u>壺</u> ・ <u>甕</u> ・ <u>鉢</u> ・ <u>高杯</u> (左順)



社

会

の

変

- ① 日本人の形成 (縄文系の古モンゴロイド・弥生系の新モンゴロイドの混血)
 ex. 土井ヶ浜遺跡 (山口県) から矢が刺さった戦士など弥生系の人骨が出土
- ② 牧畜の始まり (ブタの飼育が行われたことが知られる)
- ③ 機織り技術の伝来 (織機により糸をかけ糸を巻きとる紡錘車を使用)
- ④ 金属器の使用 (銅と錫の合金の青銅器・鉄器はほぼ同時に伝来)

- [青銅器の代表的な遺跡] ——
- ① (神庭) 荒神谷遺跡 (島根県) (銅剣・銅矛・銅鐙が出土)
 ★各種の青銅器が特定の地域にしか出土しないという定説を覆す
- ② 加茂岩倉遺跡 (島根県) (日本最多の39個の銅鐙が出土)

- (1) 鉄器 (実用的な工具・農具・武器として使用)
- (2) 青銅器 (非実用的な祭器・宝器として使用→のち大型化)
- 平形銅剣 (瀬戸内海中心に出土)
- 銅鐙 (近畿地方中心に出土) → 原始絵画が描かれている
- 銅矛(鉋) (九州北部中心に出土)
- 銅戈 (九州北部中心に出土) 日本独特のもの [銅鐙]



- ⑤ 墓制 (地域に応じて墓制の形態が異なる)
 → 伸展葬 (死者の手足を伸ばす埋葬形式→集落近くの共同墓地内に葬る)

- (1) 九州北部＝甕棺墓 (二つの甕を合わせた甕形の棺)
 朝鮮半島南部の支石墓 (支石の上に大きな板石を載せる)
 ★須玖岡本遺跡(福岡県)に多くの甕棺墓・支石墓が存在
 影響が大きい
- (2) 西日本＝箱式石棺墓 (板石を長方形の箱状に組み合わせた棺)
 ★特定の甕棺墓・支石墓・箱式石棺墓から銅剣・銅鐙などの副葬品が出土
 → 貧富の差(身分階級)の発生を示す
- (3) 近畿地方＝方形周溝墓 (方形の低い墳丘の周りに溝をめぐらす)
- (4) 西日本＝墳丘墓 (共同墓地外に造られた墳丘をもつ墓→最大級は楯築遺跡(岡山県))
 弥生時代の古墳 ★四隅突出型墳丘墓 (山陰・北陸地方に広がる方形の四隅が突出した墳丘墓)
 → 荒神谷遺跡などからも出雲地方に王権があった可能性を示す

- [集落(軍事的・防衛的施設を整えた集落)] ——
- ① 高地性集落 (瀬戸内地方中心に、山頂・丘陵上にある集落)
 ex. 紫雲山遺跡 (香川県)・会下山遺跡 (兵庫県)
- ② 環濠集落 (九州～関東中心に、周りを溝で取り囲んだ集落)
 ex. 吉野ヶ里遺跡 (佐賀県)・池上曾根遺跡 (大阪府)
 ★大塚遺跡で、物見壇(魏志倭人伝の楼観か)を発掘(1986)
 唐古・鍵遺跡(奈良県)・大塚遺跡(神奈川県)
 ★大塚遺跡で、多数の弥生土器・木製農具を発掘(1937))

